

自然に親しむのが好きな私は今年度も早坂高原での「第16回未来を育てる植樹祭」の下草刈で汗をかいて「やったよね！」の達成感もありましたし、参加してよかったです。

子供達や市の職員さんとの交流は以前からあったのですがH26年度に岩泉町と昭島市が友好都市協定の調印を実施し、その一環として先方の住民・企業・漁業組合・その他の団体等が一丸となって協力し取り組んでいる

“森を守るこの行事”に昭島市も市民を募集して昨年度から実施していたのです。

日本三大鍾乳洞のひとつである龍泉洞をはじめ岩泉町の豊かな自然を再確認するとともに関係者によるツリークライミングの説明・体験が小雨のなか“ふれあいランド”であり、伊達町長も参加されていまして人々の温かさも感じました。

龍泉洞に生息している蝙蝠も歓迎してくれたようで今回はその確認ができました。

この行事に初めて参加する人にとっては岩泉

町と昭島市が友好都市になった背景とか、岩泉町のことも事前にいろいろと学習理解する機会があってもよかったのかなとも思いました。

今回は市民との実行委員形式で行いたいとお話が事前にあり数回の打合せがありました。が市側で昨年同様に計画・手配・実行をして頂き、実行委員の役割がいまいちはっきりしてなかったし、具体的に何をすればいいのかすべきことがわかりにくく思惑のずれが最後まであったような気がしています。この交流事業には市の予算も投入していますので多くの市民が抽選になるくらいに関心を持って応募し参加してくださることに意義があります。もちろん受入れ側の考えもあろうかと思いますが魅力ある環境連携事業にしていきたいです。

岩泉町との環境交流事業とはいえ、市の職員さんと参加した市民同士との交流も大切なことはいままでもありません。一昨年、昭島市

も市制60周年を迎えましたが、岩泉町も6つの地区が一緒になって今年も60周年を迎えるとのことで親近感をおぼえます。

今秋は“希望の郷国体”が岩手県であり、昨年の視察ではがれきを片付けた田老地区の更地には新しい野球場ができていました。小本地区と田老地区の再訪問には現地の町役場職員に同行していただき、復興の現状等が伺うことができました。まだまだ時間がかかるかもしれませんが応援していきたいです。

昭島市と岩泉町の距離がもう少し近ければいいのになあと思うときがありますがお互いの住民と関係者の理解のもと、環境交流事業の発展と末永く続くことを願っています。